

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
2	基本計画 (【1】人権・共生 のまちづくり)	<p>・誰もが住みやすい公平なまちづくりという、従来の人権がイメージするよりも幅広の施策として検討いただきたい。特に、人権三法に法定されるこれまで差別を受けてきた人への対応、また、これから生まれる新たな価値観等も念頭に、多様な価値観や生き方・働き方、地域への関わり方など、社会的包摂の観点からの記述を検討していただきたい。</p>	<p>「4 市の取り組み①」の赤字表示のとおり、項目に「(ソーシャル・インクルージョン)」を追加し、「多様な生き方」「包み支え合い」「市民、事業者、地域の団体等と一緒に」とそれぞれ修正しました。</p> <p>「4 市の取り組み②」の赤字表示のとおり、項目に「障害者差別」を追加し、「人権三法等に基づき」と修正しました。</p>
		<p>・取り組みについては、困難さを抱える当事者の意見を聞き、個々人の人権を尊重しつつ、市民・事業者・市が一緒に取り組むようなイメージを持たせる記述を検討いただきたい。</p>	<p>「4 市の取り組み①」の「社会的弱者や少数者など誰一人取り残さない視点をもって・・・施策を推進する」記述に、当事者の意見も踏まえて当事者のおかれた状況を把握することを当然の前提として含んでいますので、現行記述で対応したいと考えます。</p> <p>「4 市の取り組み①」のを赤字表示のとおり、「市民、事業者、地域の団体等と一緒に」と修正しました。</p>
		<p>・成果指標について、自治会の役員における女性の割合の目標値は精査いただきたい。また、取り組みにあった成果指標となるように内容を精査いただきたい。</p>	<p>成果指標のうち、「市の管理職における女性比率」に修正しました。</p>
		<p>・10年後の将来像で、性別・性的指向・性自認など最初に「性」に関する言葉が続き偏りを感じた。女性の活躍も大事だが、女性が活躍している分野で男性が活躍する観点もあるので、「性差のない活躍」という観点で記述すべきだ。</p>	<p>「1 10年後に目指したい将来像」を、赤字表示のとおり、全面的に修正しました。</p> <p>「3 10年後に目指したい三田の状況(C)」を、赤字表示のとおり、「女性の参画や活躍」を「女性の参画が広がり男女の性差のない活躍」「誰もが安全安心に暮らせる暴力のない」にそれぞれ修正しました。</p>
		<p>・市民の取り組みに「困っている人がいれば手を差し伸べる」ということを入れてはどうか。</p>	<p>「4 市民の取り組み」を赤字表示のとおり、「日頃から互いを認め合うとともに、互いに手を差し伸べ合支え合える関係をつくります。」と修正しました。</p>
		<p>・市民の取り組み「共に支え合う社会の一員としてできることに取り組みます」が抽象的であるので、具体性がある踏み込んだ表現になるよう検討いただきたい。</p>	
		<p>・4 取り組み(市)③「固定的な性別役割分担意識や性差による偏見の解消を図るとともに」が抽象的であるので、具体性がある踏み込んだ表現になるよう検討いただきたい。</p>	<p>「4 市の取り組み③」を赤字表示のとおり、項目名及び内容を全面的に修正しました。</p>

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
3	基本計画 (【2】地域で支えるまちづくり)	多様な背景を持つ方々が、自分のライフステージに応じて参画できるほか、意思決定の場にも参画できる地域づくりを進めて欲しい。	「4 市民の取り組み」の赤字表示のとおり、「参加、発言しやすい雰囲気づくりなど、」と修正しました。
		地域におけるまちづくりの目標は、市の全体の目標を参考に、それぞれの地域にあったまちづくり目標を設定し、地縁型コミュニティから新しいテーマ型コミュニティまで、それぞれが協力し合いながら取り組んでいくことが大切ではないか。	「4 事業者・団体等の取り組み」の赤字表示のとおり、「◆地域の未来像を共有しながらその実現に向け、多様な団体が協力し、取り組みます。」と修正しました。
		まち協の推進にあたっては、これまでの経過も踏まえ、前期計画ではまちづくり協議会を改めて理解する期間として、後期基本計画ではまちづくり協議会を再構築する期間として位置付け、関係団体との関係性を整理しながら段階的に進めてはどうか。	熟度に差はありますが、先進的な取り組みを進めているまち協もあることから、前期期間中に足並みが揃うことを目標に実情に応じた段階的な支援に努めてまいります。
		まち協は、小さな取り組みの積み重ねで住民の理解を広げながら、地域の中で人を繋ぐ役割として担うことが重要ではないか。また、組織の中におけるコーディネーターについては、研修機会を通じて育てることが大切である。	地域づくりをテーマに地域内外の様々な主体がつながる様、市として可能な支援に努めてまいります。今後重視されるコーディネーターについては、地域人材と担当職員双方を視野に入れた育成が課題と認識しています。
		市民の取り組みの記載内容については、イメージづくりから、表現を検討して欲しい。また、成果指標についても多様性等を表すような指標を検討して欲しい。	「4 市民の取り組み」の赤字表示のとおり、「自治会活動に参加」と修正しました。
		市の取り組みとして「地域住民の目からみた課題の把握と、市の活動指針への反映」を入れていただきたい。	「4 市の取り組み③」の赤字修正のとおり、「まちづくり協議会等が住民の課題意識の把握や」「地域計画をもと」「地域担当や市民センターの機能強化、デジタル技術の活用等を通じた負担軽減や意思決定の透明化を支援」とそれぞれ修正しました。
		市民の取り組みについて、「地域づくりを自分ごととしてとらえる」は突飛に感じる。「興味を持つ」としてはどうか。	「4 市民の取り組み」の赤字表示のとおり、「関心をもち」と修正しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
4	基本計画 【3】健康づくり	食育の観点から健康と農業はつなげて考えられる。学校給食等を通じ三田市ならではの取組みを検討してはどうか。	「4 市の取り組み⑤」の赤字修正のとおり、「三田の恵みを次世代に繋げるため、食の環境負荷や農業への理解を深め、食が持続可能なものとなるよう啓発を行う」と、追記しました。 ※三田市食育推進計画(後期)及び三田市の学校・園における食育推進計画に基づき、健康づくりや地産地消の推進を総合的に図っており、三田産農産物を取り入れた健康料理教室の開催や学校給食にも取り組んでおり、継続して推進していきます。
		健康づくり、介護予防の観点では、学校支援ボランティア等も活用した高齢者と学校との関りを強くする、また、あらゆる年代に対応した情報発信が必要である。	「4 市の取り組み③」の赤字修正のとおり、項目名の変更とともに、「健康づくりの輪を広げるために」「ボランティア活動など多様な活躍の場を通じて、生活習慣の改善や健康増進ができる仕組みづくりや環境づくり」と、修正しました。 ※ボランティア活動など多様な活躍の場を通じて、地域、学校との関わりを持ち続けることは重要なことで、それが人のいきがいつくり、健康づくりにもつながります。 知識や情報の収集、健康づくりの実践の場・機会、健康づくりをサポートする人材としてボランティア等も活用できることを周知啓発していきます。
		ウォーキングカフェや健康レンピ、ICTを活用したフレイル予防、徒歩数に応じたアプリによる企業とのタイアップを提案する。	「4 市の取り組み②」のデジタル技術を活用したヘルスケアの取組みの中で推進します。 ※健康アプリなどデジタル技術を活用し、民間企業等と共創して、健康管理、健康づくりの取組みを検討していきます。
		子どもの頃からの健康への取組み、自らの健康を守る意識づけなど、全世代にわたる健康教育が必要である。	「4 市の取り組み③」の赤字修正のとおり、項目名の変更と、「生涯にわたる健康教育を充実し」と、追記しました。 ※子どもの頃からの基本的な生活習慣の定着や健康づくりに関する知識の習得に向けた取組みを進めていきます。
		フレイル予防の表記について、日本語表記も入れるとわかりやすい。	「フレイル」については、別途註釈で示しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
5	基本計画 【4】乳幼児期の育ち	保育士の離職率を低くするためには、私立保育園のサービス残業などの働き方の見直し、子どもと接することでの精神的なストレスの軽減をすることが必要である。	「4 市の取り組み①及び③」の赤字表示のとおり、修正しました。 ※保育サービスの質と量を確保するためには、保育人材を確保することが不可欠です。これまでの保育人材を確保するための取り組みを継続・改善することにより、市全体の保育人材の確保に努めることとします。
		保育士の処遇改善については、今後拡充していくことが必要である。	
		市立幼稚園の芝生の管理については、地域を巻き込むことでコミュニティも活性化し、地域の居場所として園を解放することができると思う。	「4 市の取り組み②」の赤字表示のとおり、「保育者の資質の向上と、周辺環境や地域との交流など地域資源の活用」に努めることにより、と修正しました。 ※ご意見を参考に「地域の幼稚園」として、地域コミュニティ活性化の機会を創出できるよう努めていくこととします。ご意見の趣旨を踏まえ、地域との交流について記述します。
		自然、里山、農業等をキーワードにしながら育てることは、三田の特性につながる。自然が豊かだが、実際に子どもが自然に触れる具体的な仕掛けづくりが必要である。	「4 市の取り組み③」の赤字表示のとおり、「保育者の資質の向上と、周辺環境や地域との交流など地域資源の活用」に努めることにより、と修正しました。 ※現在も立地を生かした取り組みが各園所で行われていますが、三田の地域特性である自然環境や里山を保育や教育において活用等するよう促すこととします。ご意見の趣旨を踏まえ、周辺環境の活用について記述します。
		保育と教育をつなげることができると思うので、余裕教室の利活用の一つとして保育を行うことを検討してはどうか。	「4 市の取り組み④」の赤字表示のとおり、「施設を活用して行われる」と修正しました。 ※就学前教育・保育施設と小学校との接続については、ソフト面での取り組みだけでなく、可能な範囲で施設の活用等についても積極的に考えていくこととします。
		関連計画に第5次三田市障害者福祉基本計画も記載するべきだと思う。	「関連計画」に追記しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
6	基本計画 【5】地域ぐる みの子育て)	多世代交流の場として、子ども食堂を使う等、多様な展開をしていけば今後より利用してもらえるのではないかと。	「4 市の取り組み③」の赤字表示のとおり、「多世代」を追記しました。
		孤食は、子どもに限ることではなくすべての世代に関わる問題である。三田の地域特性や健康を視点として考えるとすれば、地域をいかに巻き込んでいくかが重要である。	
		和の体験を学校で進めて欲しい。	【6 学校教育の充実】の「4 市の取り組み②」「豊かな心の育成」を図るための参考とさせていただきます。
		地域コミュニティについて、三田は自然を活かして、外で触れ合う機会を作りやすい環境にあると思うので、コロナ禍ではあるが自然を活かした交流を進めていくと良い。	「4 市の取り組み②」の赤字表示のとおり、「自然環境」の活用を追記しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
7	基本計画 (【6】学校教育の充実)	健やかな体の育成のためには、オーガニック給食を取り入れてはどうか。幼い頃から確かな味を知ることが大事で生きる力や地域を知ることにつながる。	「4 市の取り組み③」において、「地場産物の活用を通し自然豊かな三田の食材を味わい、…」との表現の中で進めてまいります。 現在、給食センターにおいては、地場産物を積極的に取り入れており、引き続き取り組んでいきます。 なお、オーガニック(無農薬・無化学肥料・無添加)の食材の本市学校給食への導入については、調理規模に対する必要量の確保や価格、異物混入など様々な課題がありますが、家庭科の調理実習での活用について、地域と連携した取り組みも含めて、今後研究を進めてまいります。
		保護者への配布プリントの電子化等さらなるICTの活用、ペーパーレス化に取り組んで欲しい。	「4 市の取り組み⑥」の赤字表示のとおり、「市民との対話を重ね」「連携した取り組みを充実し」と修正しました。
		学習については、認知能力だけでなく非認知能力も大事ではないか。	平成29年に示された新学習指導要領において求められる資質能力が示されています。本計画では「4 市の取り組み①」「確かな学力の育成」において、その「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力」に加え、「学びに向かう力、人間性等」といった非認知能力を含めて平易な表現で示しており、本市においても重視していきます。また、これらの資質能力をバランスよく育成していくこととしています。
		ふるさと学習はいかに教育に落とし込んでいくかということが必要である。	「4 市の取り組み②」の赤字修正のとおり、「教科横断的に学ぶ機会を通じて、」ふるさとを愛する心を育むと修正しました。
		学校再編について、小学校再編と中学校再編では意味合いが変わるので、小学校再編については慎重に検討する必要がある。	「4 市の取り組み⑥」の赤字修正のとおり、「市民との対話を重ね」学校再編に取り組ますと修正しました。
		今後の10年は学習指導要領が変わった中での10年となるので、その視点も持ちながら進めてもらいたい。	平成29年に示された「新学習指導要領」、また令和3年1月に『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(中教審答申)』が示されており、本計画素案作成にあたって、これらを反映したものとしています。 なお、「4 市の取り組み①」「確かな学力の育成」においては、資質・能力をバランスよく育成するとともに、個別最適な学びや協働的な学びを充実することを示しています。また、ご意見を参考とし、「デジタル技術を効果的に活用しながら「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させるなど、今後10年間の教育活動を推進していきます。
		子どもたちが、地域と交流を持ち、コミュニケーション力をつけていくことは、生きる力を身につけるうえで重要と思う。	「4 市の取り組み⑥」の赤字修正のとおり、学校と地域が「連携した取り組みを充実します」に修正しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
8	基本計画 (【7】若者が集うまち)	若者は20～30歳代に、高校生を対象に加える形で施策を検討するとともに、若者が集うだけでなく、三田市で成長・選択するというニュアンスを盛り込んで欲しい。	「1 10年後に目指したい将来像」及び「3 10年後に目指したい三田の状況」の赤字表示のとおり、若い世代の対象に「高校生」を追記しました。
		積極的な若者だけでなく「多様な若者が生きやすいまち」というニュアンスの記述を検討して欲しい。	「1 10年後に目指したい将来像」の赤字表示のとおり、「多様な若者がいきづらさを感じることなく」と追記しました。
		大学生が研究や学習を通して三田に気軽に来てもらうことを、三田に触れてもらうチャンスとして捉えて積極的に受け入れることを検討して欲しい。また、若者の低資本の起業や学生の地域デビューを地域とともに支援することも検討して欲しい。	「4 市の取り組み①」の赤字表示のとおり、「企業や地域活動などチャレンジしやすい支援」を追記しました。
		成果指標に関し、「地域で実装されている学生等若者のプロジェクト数」についてはチャレンジした数を指標として再検討するほか、出生数については、子育て人口の増加・流入のように三田の魅力を感じて住んでもらうことに関連するような指標として再検討して欲しい。	「5 成果指標」の赤字表示のとおり、「地域で実装されている学生等若者のプロジェクト数」を「チャレンジできた」ものに、「出生数」を「未就学児童(0～4歳)数」に、それぞれ修正しました。
		「若者が憧れるような人材を育て、また発信していく」ために、市民の取り組みとして「魅力ある人材になる」こと、市の取り組みとして、「市民が魅力ある人材となるよう支援する」ことを記載するよう検討してはどうか。	「4 市民の取り組み」の赤字表示のとおり、「学生など若者が目指したいと思えるような生き方・暮らし方を実践し、若い世代を積極的に受け入れ、育てる」ことを、「4 市の取り組み⑥」の赤字表示のとおり、「若い世代にとって魅力的な地域、人の育成を支援する」ことを、それぞれ追記しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
9	基本計画 (【8】いつまでも 学び、活躍で きるまちづくり)	毎年開催される継続したスポーツ大会が市内で開催されるとまちの知名度があがる。	毎年開催されるマスターズマラソンでは、5千人近い方が参加されており、三田の知名度アップに貢献しています。こういった取り組みを継続して行っていくます。
		農業ブームを活用して教え、学ぶ場や機会を提供してはどうか。コミュニティ単位のつながりを大事にしていくことにより、地域や若者ともつながっていくことができる。	生涯学習等のテーマの1つとして参考にさせていただきます。農業体験などで多世代が交流することで地域コミュニティの活性化にもつながると考えます。
		学ぶ場として市には生涯学習カレッジがあるが、参加できない方への学習機会の提供についても考える必要がある。そのため、高齢者の生活圏ごとに小規模で利用しやすい学びの場ができていけば良いのではないかと。なお、この点には、次のことが期待できると思う。 ・今後は市がバックアップしていくことで、個々の活動が面として広がっていくことが期待できること。 ・このような場を通して若者とつながることで、高齢者と若者の意識ギャップがなくなること。	生涯学習カレッジは、生活圏域ではなく市内3つの会場で実施しています。 生活圏域においては、まちづくり協議会や老人クラブなどの地域団体が行っている教養講座や教室等の事業が学びの場につながっています。 地域住民が主体となり、その地域の実情に合わせた学びの場を広げていく取り組みをサポートしていく必要があると考えています。
		障害者の居場所づくりは、活動を点在させていくことで人の交流が活発になり、まちの活性化につながるのではないかと。	「4 市の取り組み⑥」の赤字表示のとおり、「や様々な機会を通じた交流」と修正しました。
		高齢者が若者に教える場だけでなく、若者が高齢者にICTの今どきの使用法や若者文化についてレクチャーするような学びの機会を継続的に提供できれば、若者とシニアとの交流の場にもなってよいかと思う。	「4 市の取り組み②」の赤字表示のとおり、「や交流の場」「市民の活躍の場を創出し、市民力を生かせる仕組みづくりを進めます。」と、それぞれ修正しました。
		取り組みとして「簡単に「先生デビュー」できるよう、背中を押してもらえる機会に恵まれている状態(イベント、広報、助成金、動画記録※後述)」があげられる。	「4 市の取り組み③」の赤字表示のとおり、「新たな楽しみの発見、生きがいや社会参加につなげるためにいきがい応援プラザ等のセミナーで「先生デビュー」を支援します。」と修正しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
10	基本計画 【9】地域医療 の安心)	医療は救急医療だけではない。急性期、回復期、慢性期をシームレスにつなぐ医療を目指して欲しい。	阪神北地域医療構想調整会議(阪神北圏域健康福祉推進協議会)での協議を通じ、医療連携体制の構築に取り組んでいます。
		現在の六甲山を挟んだ地域特性よりも、神戸市北区などの隣接区域での医療連携が現実的である。	「4 市の取り組み③」の赤字修正のとおり、「神戸圏域など」と、追記しました。 ※三田市は、従来から小児救急医療、周産期医療圏域が神戸市と同一圏域であり、他圏域との医療連携を引き続き柔軟に実施しています。
		安心をもたらすには、三田市の地域性を踏まえた医療圏を考えることが必要である。	兵庫県保健医療計画を基本としながら、他圏域との医療連携を引き続き柔軟に実施してまいります。
		医師確保の困難さと三田市民病院の老朽化があり、ソフト・ハードの両面を考える必要がある。	ご意見への対応を含め、現在「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」を設置し、有識者を含む委員より、急性期医療の確保に関する、あらゆる方策について意見をいただいております、その報告を受け、一定の方向整理を進めます。
		かかりつけ医の役割は重要であり、如何にしてかかりつけ医でトリアージを行うかが重要である。	引き続きかかりつけ医を持つことのメリットを様々な媒体を通じて、啓発していきます。
		かかりつけ医+α (ICT、ネットワーク化)を提案する。	「4 市の取り組み①」の赤字修正のとおり、「医療関係機関と連携して、病気の予防のアドバイスを受けられるなどかかりつけ医へ容易にアクセスできるようデジタル技術の活用を促進します。」を追記しました。
		かかりつけ医から病気を予防するアドバイスをもらえる制度があると良い。	「4 市の取り組み①」の赤字修正のとおり、「医療関係機関と連携して、病気の予防のアドバイスを受けられるなどかかりつけ医へ容易にアクセスできるようデジタル技術の活用を促進します。」を追記しました。 ※生活習慣病予防に向けた保健指導を実施していますが、今後後期高齢者に対しても医療機関と連携してフレイル予防に取り組む体制を構築します。
		市内小学校の5年生対象の「命をつなぐ授業」を毎年行う必要があると思う。また「命をつなぐ授業」でAEDの普及や普通救命講習(三田版救命研修カード)等の啓発をされてはどうか。	「4 市の取り組み⑤」の赤字修正のとおり、「心肺蘇生法やAEDの使い方などを学び」と追記しました。 ※「命をつなぐ授業」は、教育委員会と調整して進めており、市内全小学校での毎年実施を目指します。AEDについては授業の中で使い方を取り上げており、授業修了後に「こども救命士認定証」を生徒に渡しています。あくまで年少期の救命への意識付け第一歩と捉えており、しっかりとした手技の習得を目指す普通救命講習等の普及啓発にその後繋げていければと考えます。
		10年後に避けたい状況のFと市の取り組み⑥が対応していないと思う。 10年後に避けたい状況と10年後に目指したい三田の状況のFからは、「身近な支援者がいれば」不要不急の救急要請の数が抑えられると読み、対策は「支援者づくり」となるのかと思うが、記載されている市の取り組みは⑥福祉担当部局との連携と、「出動要請時」のこととなっている。	「2 10年後に避けたい三田の状況」の赤字表示のとおり、「不要不急の救急要請による出動件数が増加し、本当に必要な傷病者への救急出動体制が維持できていません。」と修正しました。 「4 市の取り組み⑥」の赤字表示のとおり、項目名とともに「救急車の適正利用に向けデジタル技術を活用した広報活動を積極的に行うとともに、救急要請により出動した救急隊が得た市民情報を警察や福祉関係部局等と共有し、連携して速やかな生活支援に繋がります。」と修正しました。 ※ご意見のとおり「身近な支援者が必要な高齢者世帯」という形では不要不急の救急要請の原因が限局的に捉えられるため記述を削除します。 市民生活のプライバシーに関わる部分に直接踏み入る救急隊の視線を活用し関係機関との連携強化に努めていきたいと考えます。 救急車の適正利用に向けた積極的な広報と合わせて取り組みます。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
11	基本計画 （【10】生活の安全安心・非常時への備え）	自給自足という観点での農の重要性について記載が可能ではないか。	災害物資については、現物備蓄のほか流通備蓄や災害応援協定による確保します。
		ICTを活用し、エリアごとにアラート情報を発信する等、市民が自ら防災に努めるような情報発信が必要である。	SNS等のデジタル技術を用いた防災情報を配信し防災意識の向上を図ります。
		情報伝達の方法について、防犯・防災それぞれの教育や活動に対する啓発のほか、防災情報や災害弱者に対するの伝達方法の充実が必要である。	SNS等のデジタル技術を用いた防災情報を配信し情報伝達の多様化を進めます。
		個別避難計画の策定にあたっては、それぞれの地域でできること、自分がやるべきこと等、役割をしっかりと認識することが重要である。	個別避難計画策定の意義や目的を要支援者や地域等の関係者に丁寧に説明してまいります。
		事業者・団体等の取り組みで、「SDGsの視点での事業活動に取り組みます」というのは唐突で、市に対して宣言をすることを強要されるものではないと感じる。	「4 事業者・団体等の取り組み」の赤字表示のとおり、「SDGsの視点での事業活動」でなく「持続可能な消費と生産に向けた事業活動」に修正しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
12	基本計画 〔11〕子ども・子育ての安心)	ネウボラは、支援が必要な人がいても相談に来ないこともあり得るので、支援が必要な人を見つけ、出張サービスを活用するなど、市から出向くことも大事である。	「4 市の取り組み①」の赤字表示のとおり、「アウトリーチも取り入れながら」を修正しました。
		児童虐待防止は、SOSをいかにキャッチしていくかが重要である。経済的な背景が大きいと考えられるので、地域コミュニティの活性化により地域で見守っていく、支援していくなど、地域ぐるみの取り組みが大事だと思う。	「4 市の取り組み③」の赤字表示のとおり、「地域や」「等と連携した見守り体制」とそれぞれ修正しました。
		ひとり親支援は、社会福祉協議会でも取り組みを進めており、いかにして通常の支援+αの声を拾っていくかが重要である。	「4 市の取り組み⑤」の赤字表示のとおり、「社会福祉法人やNPO法人等関係機関との連携により」「把握に努め、解決に向けた」と修正しました。
		成果指標に定期接種の実施率を加えてはどうか。	「4 市の取り組み②」の赤字表示のとおり、「定期接種」「未受診・未接種者の状況把握に努め」修正しました。 ※定期予防接種は、麻しん風しん混合ワクチン(MR)のみ国が定める接種目標(95%以上)が明示されています。よって定期接種全体の目標実施率を定めることが難しいことやご質問の主旨から、「未接種者の状況把握に努める」ことを本文に追記しました。
		市の取り組み③児童虐待防止等への取り組み、④子どもの貧困対策の推進で、早期発見や早期支援の体制づくりに取り組むとあるが、成果指標では、その取り組みが見えない。子どもを守る取り組みとしての指標は必要だと思う。	③児童虐待防止等への取り組み 虐待件数を減らす取り組みではありますが、その一つとして虐待通告件数を指標とすることが考えられます。しかし、通告件数が減ることが虐待の減少と捉えてよいのか、通告件数が増えるほど早期発見につながっていると捉えてよいのか、指標として判断することが難しいと考えています。 ④子どもの貧困対策 「4 市の取り組み④」の赤字修正のとおり、「保護者に対する就労支援・経済的支援(特にひとり親については養育費の確保支援等)や子どもに対する」「定期的な実態調査を踏まえた支援を行います。」とそれぞれ修正しました。 ※③と同様に、相談件数等を成果指標とすることは難しい面があります。そこで、ご質問の主旨を踏まえ、定期的な調査に基づき正確に現状を把握して取り組みを進めることや重点を明示するよう本文を修正しました。 なお、国では「子供の貧困対策に関する大綱」に指標が示されており、これらも念頭に置きながら支援を進めてまいります。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
13	基本計画 (【12】高齢者の安心)	ゴミ出しサポート、有償ボランティア、ワクチン接種などITやスマートフォンの操作支援など、些細な助け合いをきっかけに支援を広げていく。ちょっとボランティア(ちょボラ活動)という事例もあり、助け合いのシステムができれば良いと思う。ボランティアと仕事とを分けるという視点も必要だと思う。	「4 市民の取り組み」の赤字表示のとおり、「相互の助け合いにより」と追記しました。 「3 10年後に目指したい三田の状況」の赤字表示のとおり、「ボランティア団体など多様な担い手による連携など、地域・福祉が横断的に連携し、地域の助け合いにより、」と追記しました。 「2 10年後に避けたい三田の状況」「3 10年後に目指したい三田の状況」「4 市の取り組み」にデジタルに関する項目を追加しました。また、「5 成果指標」について、「70歳以上のスマートフォン・タブレット利用率」を追加しました。
		子どもの見守りボランティアをきっかけとして、教育・福祉・地域が横断的な連携を推進する仕組みを整えてはどうか。	「3 10年度に目指したい三田の状況」の赤字表示のとおり、「ボランティア団体など多様な担い手による連携など、地域・福祉が横断的に連携し、地域の助け合いにより、」を追記しました。 「3 10年後に目指したい三田の状況」の赤字表示のとおり、「子どもから高齢者まで多世代が関わり、」を追記しました。
		地域全体でつながれるような仕組みづくり、年齢に関係なく活躍できるような場所づくりを提案する。	地域で活動されている自治会、まちづくり協議会、ふれあい活動推進協議会、ボランティア団体等がそれぞれの地域に見合った形で多世代が参画し、つながり、活動ができるよう支援してまいります。 「2 地域で支えるまちづくり」「4 市の取り組み②」の多様な住民の参画の推進に反映させています。
		普段からの相談場所として地域包括・高齢者支援センターの認知度向上を図る必要がある。低下傾向にある認知度向上を図るうえでも、現行の成果指標は維持すべきだと思う。	「5 成果指標」の赤字表示のとおり、「包括支援センター認知度」を追加しました。
		「地域包括ケアシステム」と従前の「地域包括支援」との違いがわかりづらい。	欄外に「地域包括ケアシステム」「地域包括支援センター」の説明を記載しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
14	基本計画 〔13〕障害のある人の安心	福祉ボランティアの高齢化、担い手をどうしていくか、また、若者をどう巻き込むかという課題があるため、若い頃からの福祉学習が重要であると思う。	「4 市の取り組み②」の赤字表示のとおり、項目名とともに「福祉学習や体験等を通じてボランティアや地域福祉を担う多様な人材の育成を図るとともに、」と修正しました。
		地域で障害者に対する理解を深めることが大事である。そのため、地域で障害について体験する場、接する場、学ぶ場が増えていくと安心して暮らせるのではないかと。	「4 市の取り組み①」の赤字表示のとおり、「障害者総合相談窓口や指定相談支援事業所等」ほかを修正しました。
		地域の中での居場所、障害者本人が住みたい場所に住めるということも保証しながらの居場所づくりが必要ではないかと思う。	「地域での働き場所、活動の場や居場所の確保」について、「4 市の取り組み②」に記述しています。 ※「共生社会推進プログラム」において「障害のある人の居場所をつくる」取り組みを進めているところです。
		障害の種別は様々あるが、意思疎通のツールとしてスマートフォン等を活用してあらゆる人に情報提供していくことが大切だと思う。アプリを活用し障害者の欲しい生活情報等の情報提供ができるようにする取り組みを進めてはどうか。	「4 市の取り組み⑥」の赤字表示のとおり、「コミュニケーションが円滑にでき、欲しい情報に誰もが容易にアクセスできる環境づくり」と修正しました。
		身体障害、軽度や重度に関わらず、セーフティネットとしてとりこぼしのないサービスの提供が必要である。器具のレンタル助成など、障害者の声に耳を傾けながら、それぞれの状態に応じたきめ細かいサービスを実施して欲しい。	現在、障害種別に応じて安心して生活ができるよう日常生活用具の充実を進めています。
		発達障害は外見からわからない障害、そういった障害に対しての理解を不可得ることが大事	「4 市の取り組み③」の赤字表示のとおり、「一貫した支援が受けられる体制整備に取り組みます。発達障害などの障害のある人に対して家庭・教育・福祉が連携しトライアングルプロジェクトを推進するなど、」と修正しました。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
15	基本計画 〔14〕心つながる暮らしの安心)	「おせっかい文化」の醸成は、地域特性をまず理解することが大事で、年齢別、地域熱によって実施手法は変えていく必要がある。	「4 市の取り組み③」を赤字表示のとおり、項目名を「心つながる」を追記するとともに、「地域の良さを活かしながら」「子どもから高齢者まで多様な人々が立ち寄れる居場所づくり」とそれぞれ修正しました。 ※人間関係の希薄化から、まずは三田版おせっかい文化の趣旨が市民や地域に理解され、根付いていくことが必要であると考えています。具体展開にあたっては地域性などの様々な特徴を踏まえるとともに、生かすことが必要と考えます。
		どのように地域とつながっていきけるか、また、地域とつながるためのサインを出していない人や出しにくい人、つながりたくない人への支援をどうしていくかが課題である。	「4 市の取り組み②」を赤字表示のとおり、項目名や内容を全面的に修正しました。 ※サインを出しにくい人やつながりたくない人に対しては隣近所での「あいさつ運動」など身近な取り組みからはじめ、距離を縮めていくことが大事です。また、問題を抱えたとしても早期に支援するために、相談しようとした機会を逃さず相談支援につながるよう、SNS等をはじめとするしくみづくりや、相談支援機能の強化、相談支援窓口等の周知PRも行っていきます。
		足立区では「おせっかい文化」の条例やマニュアル作成など既に取り組みを実施しており、参考にしてはどうか。	足立区では足立区孤立ゼロプロジェクト推進に関する条例を制定し、いくつになっても地域の人との交流があり、「笑顔があふれるお互いさまのまち」をみんなの力で築いていく活動をされています。 4 市の取り組み③「おせっかい文化の醸成」に関して、具体的な取り組みを展開していくにあたり参考にしたいと考えます。
		つながりたいときにつながれる状況が重要であり、そのためには、活動の可視化によりいつでも来られるような環境にすることが大切だと思う。	幅広い世代の人が時間や場所、対面・非対面にとられることなく、いつでもつながれるように、ICTなどを活用しながらより良いしくみをつくるとともに、相談窓口や居場所を身近に知ってもらえるよう紹介冊子などをわかりやすく周知PRするような工夫をしてまいります。
		孤立と孤独をどう考えるか。孤立孤独にならないための予防、孤立孤独の状態にある方への支援といった2つの対応が重要だと思う。地域の生活単位に切かに「おせっかい文化」を落とし込むかが今後大切だと思う。	「4 市の取り組み②」を赤字表示のとおり、全面的に修正しました。 ※意見をいただいた重要な2つの対応(孤立・孤独にならないための予防の為の取り組みと、孤立孤独の状態の方への支援の取り組み)について、2つの方向性を整理して記述するようにしました。 「4 市の取り組み③」を赤字修正のとおり、「地域の良さを活かして」を「子どもから高齢者まで多様な人々が立ち寄れる居場所づくり」にそれぞれ修正しました。 ※人間関係の希薄化から、まずは三田版おせっかい文化の趣旨が市民や地域に理解され、根付いていくことが必要であると考えています。具体展開にあたっては地域性などの様々な特徴を踏まえるとともに、生かすことが必要と考えます。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答
17	基本計画 【16】農業の振興	豊かな食を支えるため、生業として収益性を求める農業に対し、自作自農や趣味といった田園風景としての維持につながる農業があり、これら2つの方向性について、棲み分けて整理することをお願いしたい。	「4 市の取り組み(市)④」の赤字表示のとおり、全面的に修正しました。 ※本市の農業は深刻な状況であり、今後10年の計画は、本市の農業の行く末を担う重要なものであると考えています。ご指摘の自作自農や趣味の農業等に関する取組みは重要であると認識していますが、本市の事情などを考慮し優先順位の高い持続可能な農業への取組み等を中心とした構成としています。 ※ご指摘の自作自農や趣味の農業等に関する市民農園や収穫体験などは、市民の皆さんに三田の農業を知っていただく重要な取組みであることから、半農半Xの考えを追記するとともに、今年度策定する第5次三田市農業基本計画の中で整理したいと考えています。
		担い手不足による耕作放棄地が増える中、若い人や移住者が少ない耕作面積でも農家として活躍できる制度を検討してはどうか。まちづくりの基本目標である「さと」には農業が果たす役割が大きく、「さと」の保全に向けてしっかり取り組む必要がある。	ご指摘のとおり、少ない面積でも農家として活躍できる制度は重要であるとの考えから、本市では少ない面積で就農いただけるよう面積要件を10a(1,000㎡)以上へと緩和しています。今後とも若者や移住者が就農し易い環境づくりを進め、「さと」の保全に向けて取り組みます。
		三田ブランドとしてのPR、収穫をはじめとする子ども達への農業体験、魅力的な取組みの実施等、効果的な情報発信が必要である。	「4 市の取り組み⑥」の赤字表示のとおり、全面的に修正しました。 ※ご意見のとおり、三田ブランドの魅力発信を効果的に行っていきます。 ※子どもたちが農と触れ合い、将来にわたり、三田産のファンとなっていたいただけるよう収穫体験の機会について追記しました。
		市民の役割として、食を買い支えることを盛り込んで欲しい。	「4 市民の取り組み」の赤字表示のとおり、「地産地消の推進」として追記しました。